

あとちのクリスマス 2025 について

1 趣旨

未来に向けて町制施行 100 年を機とした防災と二宮らしい魅力づくりの推進の学びの拠点「水と緑の時空エコミュージアム」構想を生かして自然との共生や持続可能な社会にしていけるために、東京大学果樹園跡地でクリスマスを通して自然との共生、循環の重要性を伝えます。

2 事業内容

一年をかけて子どもたちと一緒に跡地にある除草されてしまう草、剪定枝、廃材などを使って、クリスマス飾りを作り、正門から奥の棚地までクリスマスの装いを施し、散策を楽しみながら、自然との共生、土壌、水、植物の重要性を伝え、さらに二宮の郷土を知っていただく展示も行います。

ほぼ毎月 1 回、二宮・森のようちえん「おひさまがおか」のこどもたちとワークショップを行い、星形飾り、紙漉き、半紙絞り染め、リースづくりなどを行っています。今年は夏休み子ども教室で昨年「あとちのクリスマス」で正門からの道に置いたフットライトの絞り染め半紙を使って、再生紙をつくり、「あとちのクリスマス」の飾りつけにも使います。また 11 月、12 月に放課後こども教室で作った星形飾りやリースも使います。

3 配置

配置等は 2、3 ページの配置計画を参考にしてください。

4 経緯

「あとちのクリスマス」は、東京大学果樹園跡地内で資源循環をよみがえらせる活動が続けながら、自然の魅力の復元と生物の賑わいの再生を実現するために、2023 年から年間を通して人と自然との共生「あとちさとやま」という取り組みに挑戦しています。

そのアピールの場として「あとちのクリスマス」を開催しています。

2 回目の昨年から有志で「あとちのクリスマスを楽しむ会」を発足させ、3 回目を迎える今年は広く PRL たいと考え、町制施行 90 周年記念冠事業に申請し、承認されました。

5 期待効果

「あとちのクリスマス」は、単にクリスマスの飾りつけをしているのではありません。

跡地は二宮の大地成り立ちや歴史、さらに土砂崩れなど災害のメカニズムの一旦も知ることもでき、植物、水、土壌、微生物など多様な生態系の重要性を感じることができます。

跡地の除草されている草、落ち葉、木の実、剪定枝などを使うことで不要なもののように感じていたものや意識されなかったものに価値を見だし、ひいては郷土を知ること、郷土を愛することにもつながっていくと考えています。

※「水と緑の時空エコミュージアム」構想

エコミュージアムは、文部科学省が提唱している事業です。

エコミュージアムとは「ある一定の文化圏を構成する地域の人びとの生活と、その自然、文化および社会環境の発展過程を史的に研究し、それらの遺産を現地において保存、育成、展示することによって、当該地域社会の発展に寄与することを目的とする野外博物館」と定義づけられています。

跡地にいると歴史や文化が感じられ、太古からの長い営みの中で自分が存在する奇跡、今自分がここに存在することが未来につながる生きることの喜びの体感、さらに自分の成長も記すことができる空間を作りたい。人も自然も建築物も共に調和し、二宮の歴史や文化、多様な生物を人はここで学びながら成長。そして、人が成長することで保全が進み、人の成長も記すことができる持続可能な社会のモデルケースを作り、二宮らしい創生事業につながれたらと考えています。

あとのクリスマス2025

12/20(土)～25(木)

東京大学果樹園跡地 @二宮町中里518



★ 20(土)・21日(日) 10:00～17:30
サンタ登場&装飾夕暮れ点灯

★ 22(月)～25日(木) 10:00～16:00

1年かけて子どもたちと作った
跡地の草木のリースやフラッグで
正門から奥の棚地まで飾りつけます
トナカイ帽子のスタッフによる
跡地ガイドやリースづくり体験も開催

主催 あとのクリスマスを楽しむ会
「しお風」神保智子 090-3142-9358
shiokaze@mj.scn-net.ne.jp

二宮町町制施行90周年記念冠事業



跡地紹介



2024動画